

心の壁

今日はペンテコステです。このペンテコステというお祭りの日は、イースターやクリスマスと比べるとあまり世間一般に知られていないかもしれません。けれども、キリスト教においてはイースターやクリスマスと並ぶとても大切なお祭りの日です。教会の暦はこれらイースターとペンテコステ、そしてクリスマスの3つの大きなお祭りの日を中心に構成されているんですね。なので、今日はペンテコステというのがどういう日か、詳しくお話をいたしましょう。

ペンテコステというのは、一言で言えば「教会の誕生日」です。今からおよそ2000年前の今日、ある出来事が起こって教会が生まれました。今日取り上げた聖書箇所、使徒言行録2:1～13にはその出来事が記されています。どんなことが書かれてあったのでしょうか。一つひとつ見ていきましょう。

この使徒言行録2:1～13のお話は、イエス様が復活して天へと挙げられてからのお話です。ペンテコステというお祭りの日にお弟子さんたちが集まって神様を礼拝していると、突然聖霊が降って来たのです。聖書には、その様子がこんな風に記されています。「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」。すると、皆は聖霊に満たされて、色々な言葉をしゃべり出しました。

さて、このペンテコステというお祭りの時には、色々な所からユダヤ人が巡礼に来ていました。今月の初め、ゴールデン・ウィークの時に府中でも「くらやみ祭」というお祭りがありましたね。この「くらやみ祭」の時には、本当に大勢の人々が府中に来て来ます。そんな風に、当時のペンテコステというお祭りの時にも、大勢のユダヤ人がエルサレムに来て来たのです。こうしたユダヤ人たちは本当に色々な所から集まって来ていたのですけれども、彼らは皆、イエス様のお弟子さんたちが自分の故郷の言葉を話しているのを聞いて、びっくりしました。「この人たちはガリラヤの人じ

やないか。なんで色々な言葉でしゃべってるんだ？」

こんな風に戸惑うユダヤ人たちに、ペトロさんがイエス様のことについてお話をしました。イエス様の生涯、イエス様の十字架と復活、昇天、その意味について、また今起こっている聖霊降臨の出来事の意味について、丁寧にお話ししました。そして、イエス様こそ私たちすべての人々を救うメシア(救い主)であることを人々に宣べ伝えたのです。ペトロさんのこのお話を聞いた人は皆心を打たれて、洗礼を受け、たくさんの方がお弟子さんたちの仲間に加わりました。こうして、今からおよそ2000年前に教会が生まれたのです。

今日はそのことを記念する日です。それゆえ、今日のお話の冒頭にも言いましたように、ペンテコステというのは教会のお誕生日なのです。そして、こんな風にして生まれた教会が、今では全世界に広がっています。

今日のお話の中で、聖霊に満たされたお弟子さんたちは色々な言葉をしゃべれるようになったとありますけれども、これはつまり言葉の壁を越えて皆と心を通じ合わせることが出来るようになったということに他なりません。このことについて、ある人はこう言っています。「人と人を分断する垣根の一つに『言葉』があります。聖書によりますと、さまざまな所から集まってきた人々が異なる言葉を話せるようになった、そこにポイントがあるわけではありません。自分が話す言葉に閉じこもることなく、多様な言葉が交わされながら、人と人が、民族と民族が、互いの立場や違いを越え、また互いの意思疎通を阻む壁を乗り越えて受け入れ合い、理解し合える道が拓かれていったということです。その可能性を拓く聖霊の働きが与えられたのです。さまざまな障壁を取り除くバリアフリーです。」

この人がこのように仰るように、ペンテコステで本当に大事ななお弟子さんたちが色々な言葉を話せるようになったことでは実はないのです。言葉の壁を越えて皆と心を通じ合わせることが出来るようになった。その聖霊の働きに後押しされて、これ

以降お弟子さんたちが人々と心の壁を取り除いて受け入れ合い、神様の愛を広めていった。それこそが、私たちが本当に目を向けるべきことではないでしょうか。たとえお弟子さんたちが色々な言葉を話せるようになっても、人々の間にある心の壁をどうすることもできなかつたなら、これほど当時の世界にキリスト教が、また神様の愛が広まることもなかつたはずなのです。

では、今の私たちはどうでしょう。先日ある教会員の方から海外のお土産をいただくことがありまして、そこに書かれてある言語を妻が携帯で翻訳してくれました。カメラをかざすと、その言語が日本語に翻訳されて映し出されてくるのです。その他にも、今は携帯に言葉をしゃべれば翻訳して相手に伝えてくれるアプリもありますし、「ポケトーク」と言うのでしょうか、持ち運びできるそういう便利な翻訳の機械も売られていますから、昔以上に言葉の壁というのは低くなってきているような気がいたします。にもかかわらず、人と人、民族と民族、国と国の間にある心の壁はちっとも取り除かれない、むしろ壁だらけになってきているような気がするのは私だけでしょうか。

他人のことを考えず、自分の、また自分たちのことしか考えない。そのように閉じこもってしまう時、心の壁が作られます。今は世界中の至る所で争いが繰り広げられている、そしてたくさんのかげがえのない命が奪われ続けている、そんな世界ですが、本当に世界を良くしていきたいなら、私たちは自分の、また自分たちのことしか考えない心の狭さを打ち破って、他人に対して心を開いていかなければなりません。人と人、民族と民族、国と国の間にある心の壁を取り除いていかなければなりません。

今日から始まる聖霊降臨節のシーズン、今からおよそ2000年前に皆と心を通じ合わせる道を備えてくださった聖霊の働きが、今の私たちにも豊かにありますように祈り求めます。世界中の人々が言葉の壁以上に心の壁を越えて互いに受け入れ合い、理解し合えるように、聖霊の働きに自らを委ねることを教会のメッセージとして訴えていしましょう。皆で一緒に、神様の愛をどこまでも広げていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——